

## 9期 知らなかった あんな話 こんな話 科

### ～そして生きがい再発見～

日時： 令和3年11月25日

場所： 豊中市地域共生センター

学習テーマ： 歴史街道「大阪北部の鉱山」 (第14回講座)

講師： 前田 豊邦 先生

内容： 大阪北部の鉱山

大阪北部には、古代から銅を採掘していた歴史がある。

大阪北部とは北摂と呼ばれる範囲内に入る

摂津の国の川辺郡、豊島郡、能勢郡（701年川辺郡を分割）で大阪、兵庫県域にまたがる地域で現在の大阪府池田市、箕面市、豊能町、能勢町と兵庫県川西市、宝塚市、三田市、猪名川町である。

長暦元年（1037年）に摂津の国能勢郡から銅を朝廷に献上（壬生家文書）

応徳元年（1084年）能勢採銅所がわかる記載があり、この採銅所は銅の他紺青・緑青を朝廷に献上する働きをしていた。採銅所は能勢町野間中に有り守護する野間神社や所在不明な仏照寺がありました。

鉱脈： この地域の銀・銅の熱水性の金属鉱床は三つにタイプに分けられる

- ① 多田銀山を代表とする銀・銅を主とする鉱床群（班銅鉱）
- ② 槻並、内馬場を中心とする亜鉛・銅鉱床群（黄銅鉱）
- ③ 国崎・名月を中心とする鉱床群（黄銅鉱）

鉱床群はほぼ南北方向に延びる分布となっています。

多田銀銅鉱山

天正12年に年に開かれる

寛文2年（1662年）～幕府の直轄地となり近隣の50数か所の諸鉱山を統括するようになり明治時代になるまで継続しました。（寛文年間が一番栄えていた）

多田銀銅山→大阪銅座（住友）で精錬して国内販売や輸出

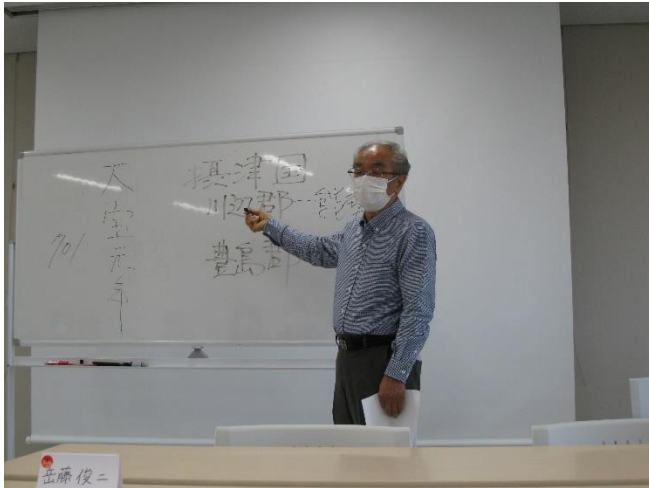
当時の面影を残した町並（川西市山上下財町）や間歩、ズリ、代官所跡、山神（鉱山の守護神、金山彦神社）などを見ることが出来ます。

猪名川町には「悠久の館」という鉱山関係の絵図や諸道具などの展示を見る事の出来る資料館がある。

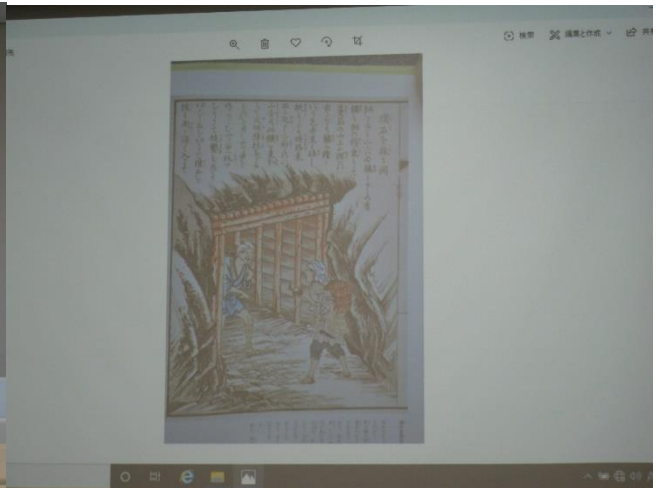
銅の焼窯には炭が必要であった。（能勢は炭の一大産地であった）

最後に豊能町光風台の天狗岩鉱山の説明。（柵内にシキ（間歩）、水ヌキ、風道、ヤキガマ要解所の書かれた絵図面で）

追記： 86歳で毎日1万歩歩く声の大きい元気な前田先生の楽しい講義でした。



講義する声の大きい元気な前田先生



間歩（坑口）の絵図面

午後からは体操

午前の講義を振り返り各班代表者が発表

13時30分～14時30分

ONCC第6期卒業生、竜田悦郎さん（71歳）池田市在住

・卒業後の活動状況報告

現役時代は典型的な昭和社會人で夫は仕事で、家事、親の介護は妻任せ  
給料明細と会社の辞令は全て残してある

退職してからの6年間は

小学校5年～中学3年までの算数・数学の修学。音楽活動（サックス演奏）  
畑での野菜作り（現在も）。臨床哲学活動（対話）

地域福祉科第6期で学ぶ

・現在は無報酬のボランティア活動

◎保育ボランティア 《だっこ》

◎日本語ボランティア（現在まで6人教える）

◎パワーアップ「ふくまる健康体操」体操

ボランティア活動の動機無し、ふっとやってみる、やっていると体が先に動く  
返ってくると思うな、自分の為にする。サードプレイス



声の大きい元気な竜田講師

うんちくのある楽しい1時間でした。